

第72号

2020年6月
認定特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX 022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1 郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail: muginokai@k5.dion.ne.jp <https://www.muginokai-koppe.com>

目次	総会報告	飯嶋 茂	・・・	1p
	貸借対照表		・・・	5p
	けんちゃんのとれづれ日記 その1	木村 賢一	・・・	6p
	コロナのこと	氏家 大介	・・・	7p
	新聞記事より ①		・・・	8p
	新聞記事より ②		・・・	9p
	3人6脚	日下 由美	・・・	10p
	新しいメンバー	阿部 央希	・・・	12p
	新聞記事より ③		・・・	12p

第21回麦の会総会は、5月24日(日)、「となりのえんがわ」にて行ない、事業報告、決算、事業計画、予算とも承認されました。

以下、事業報告の抜粋と公告の対象となる貸借対照表を載せます(ホームページにも掲載しています)。

飯嶋

2019年度事業報告

【1】30周年を経ての課題に向き合いながら

おかげさまでコッペは創業から30年以上の月日が経ちました。

成果もある一方、課題も多くあります。5年10年後の方向性も踏まえ、課題については主に理事会の中で検討を重ねてきました。

論点は以下の通りです。

*理事会の機能を強くする。

役員改選については現在の役員が継続となったが、外部理事の登用、若返りなどの検討が必要。理事会で事業計画・予算等も立案できるようになれば。定款で定めている理事の人数は、3人以上10人以内→実際に理事をお願いできる人はいるか、各自、依頼できそうな人を探す

*代表の飯嶋の後継者をどうするのか

まずは、飯嶋の業務を現在のスタッフで分担していくことをさらに進める。志をおなじくする他のNPO団体との連携を図る(統合?業務提携?)

ハードルは高いが、「後継」問題は他のNPOでも同じ課題がある。
*色々な方を受け入れるにはパン・クッキーを作る以外のことも検討してもいいのではないか

現状のコッペは手狭　メンバーの年齢も上がってくる
例えば、こんなことも考えられるということを出し合った

- ① ひこさんとの連携
- ② 旧「あずみ」さんの場所を借りる　製造場所とする
- ③ 今の場所の2階の部屋をかりる　事務スペースにし、作業場を広げる
- ④ いずれにしても地域の方も利用できるような場所にしたい。

*送迎についても考えなくては、

火・木・金の帰りは、配達の際に送ることは可能
月・水も帰りであれば可能性はあり
公共交通機関を使えるようになる練習も必要
移動サービスを通勤・通学にも使えるように制度の変更を要望して
いく→参議院議員に「重度」の障害のある方がなったのは、制度を変えて行くいい機会

いずれもすぐには結論の出ない問題ですが、理事会の中である程度じっくり話し合うことができました。来年度も引き続き検討していきます。

なお、今年度は以下の3団体より助成金をいただくことができ、冷凍コールドテーブル購入など行うことができました。ありがとうございます。

*東北ろうきん復興支援助成金より 30万円

*七十七銀行愛の募金会より 20万

*仙台建設業協会より 5万（毎年いただいています）

【2】理事会

計9回行いました。10月理事会は台風のため中止。収支状況・販売・行事予定・会員の状況・ショップについて、麦の穂の発行といった議題等について話し合いました。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスでやってきました。理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらいたいと思います。

【3】会員（2020年3/31現在）

正会員 24名、賛助会員・寄付者 123名（昨年度より6名減）

2018年2月1日を持って認定NPO法人として認められました。「認定」になったことを強みに会員・寄付者の増加を試みてきましたが、人数としては昨年より減少してしまいました。ホームページ上に寄付欄を設けることも検討しましたが、経費の面から実現していません。

認定NPO法人として継続するためには、年3,000円以上の賛助会員・寄付者が平均で100名以上いることが最低の条件です。安定して認定の条件を

クリアするためにはさらに寄付者・賛助会員の増加が必要です。情報発信に努めながら賛助会員・寄付者の拡大に図りたいところです。ご協力を引き続きお願いします。

【4】社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計4回 それぞれ250部前後

2019年 6月 10月 12月 2020年3月

今年度は予定通り4回発行できました。内容も充実していたと思います。賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。随時原稿を募集します。

② ボランティアの受け入れ

認定NPO法人杜の伝言板ゆるるが主催している「高校生の夏ボラ体験」の受け入れ先となっています。毎年8名程度の方が体験に来られています。他に、中学生の職場体験の受け入れも行いました。

【5】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

① 開設状況

開設日数は、257日/年、利用者延べ数は、3,630人（昨年257日/年、利用者延べ数は、3,715人）となっています。コッペの定員としては、20名。当初在籍は18名、10月より19名となりました。一日当たりの平均利用者数は、14.2人（昨年14.5人）となります。延べ数、平均数とも昨年を下回っています。その分給付費収入も減少しました。

それを支えるスタッフは、常勤5名、パート3名です。それに区役所販売等を手伝っていただけるボランティアの方々等に、協力して頂きました。多くのメンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にもこれまで行っていなかったメンバーも参加してもらいました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,344万/年（仕入れ販売分226万含む）、月平均195万となっています。2018年度の売り上げからは約125万上がりました。店頭販売・卸売り・外販とも順調に推移しました。コラボ商品の開発も売り上げ増の要因となりました。中でもワタリスさんからの亘理のいちごを使った新しい亘理のいちごクッキーの開発、そしてハンバーグのハチを展開する㈱オールスパイスさんから製造委託（いわゆるOEM生産）を受けた商品名「ハチコロ」の開発は大きなものです。特に「ハチコロ」の開発にあたっては㈱オールスパイスさんからの多くのアドバイスをいただき、これまでのコッペにはないクッキーに仕上がりました。

10月からは消費税が10%に上がりました。食品には8%の軽減税率が適用され今のところ直接的な影響は感じられませんが、仕入れ経費の実質的な値上がりなどが不安材料です。

なお、コロナウィルスの感染拡大の影響で3月からは区役所販売を始めほ

とんどのイベントが中止になるなど、3月以降の売り上げは確実に減っています。

③ 訓練等給付費収入

2019年度は2,822万ほどとなりました。前年度より約60万下がりました。前述したように平均利用者数が若干下がったことが要因です。2020年4月より新しく1名増員することとしました。

④ 工賃

障害メンバーの給料は、最高で76,500円最低16,000円、平均約51,124円となっています。平均は昨年とほぼ同じです。コッペの目的とする共に働くことの具体的な現われが工賃の金額です。その目標が達成できないのでは、コッペをやっていくこと自体の意味がありません。そのためにも売り上げの増加が必要です。

⑤ 収支状況

収支としては、約103万の赤字となりました。売り上げは増えましたが、給付費の減少や、法定福利費を含めた人件費の増加など支出は増加しました。昨年に引き続き100万ほどの赤字決算であり収支状況の改善に取り組む必要があります。

⑥ コッペショップ

障害メンバーも一緒に店番・外販することが定着しました。月・水のミーティングの際に、次週以降の販売・店番を決めるようにしています。店番に関しては、お客さんが来ない時の仕事をどのように構築するかが課題となっています。

キャッシュレス化に対応するために、電子マネー・クレジットカード決済ができる端末を導入したほか、ペイペイに対応できるようにしました。利用する人は確実に増えています。

他には、プラスチック袋の削減に対応するため、家庭に眠っている紙袋の提供を求めて再利用するなどの対応をして切り替えを進めました。

ショップカードの改善についても検討しました。スタンプが押せるように変更。以下の内容です。現在のショップカードがなくなり次第変更します。

⑦ ホームページ

認定NPO法人になったことによるホームページの修正もできています。法改正に合わせ、貸借対照表などもホームページ上で見るできるようになりました。フェイスブックは、主にイベントの告知等で活用しています。フェイスブックへの投稿がホームページに反映されるようになっています。麦の会ページへの「いいね」は500人を超えました。

ホームページ上で、寄付金の入金ができるようにできないか検討しましたが、経費としてホームページの更新料が10万、月締めで5%手数料として取られるといったことであり、今回は見送りました。なお、セキュリティをアップデートすることは行いました（費用3万）。

以下 略

貸借対照表

2020年3月31日現在

特定非営利活動法人 表の会

単位:円

科 目	金 額	金 額
1 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	26,926,057	
売掛金	465,082	
商 品	56,000	
仕掛品	160,000	
原材料	1,499,199	
立替金	8,013	
未収入金	4,401,874	
預 け 金	15,240	
流動資産合計		33,531,465
2 固定資産		
1 有形固定資産		
建 物	199,901	
機 械 装 置	2,123,294	
車 両 運 搬 具	849,977	
器 具 備 品	668,261	
有形固定資産計	3,841,433	
2 投資その他の資産		
出 資 金	177,600	
敷 金	1,560,000	
投資その他の資産計	1,737,600	
固定資産合計		5,579,033
資産合計		39,110,498
II 負債の部		
1 流動負債		
買掛金	210,307	
未払金	790,472	
未払費用	2,332,608	
前受金	440,000	
預り金	50,100	
流動負債合計		3,823,487
負債合計		3,823,487
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	36,317,663	
当期正味財産増減額	△ 1,030,652	
正味財産合計		35,287,011
負債及び正味財産合計		39,110,498

◎ (けんちんのつれづれ日記... その1

『V/a (ビオラ)は、コッパの財産!!』



わたしこと、木村ケンイチ (けんちん)は、20年以上前、
3年間くらいコッパで働かせてもらっていました。
コッパをやめてからも、コッパSHOPの手伝いをさせて
もらったり、クッキーゼパンを買いに来たりして、ゆるくつながって
いました。

2014年3月に、私は“おおぞらストリングス”という
弦楽合奏団の人たちと、アメリカのボストンへ演奏旅行へ
行ってきました。ボストン東校のジャズバンドのメンバーの
人々と交流演奏もして、あと東日本大震災の支援の
感謝も伝えるに、演奏旅行へ参加させてもらいました。
その時のおみやげ話をした時、コッパのKくんの
お母さんから、すばらしい言葉をいただいたのでした。

『木村くんのビオラはコッパの財産だね!!』と...。
私がコッパで働いていた時に貯金したお金で
買ったビオラだったので、コッパのみなさんと働いて稼いだ
血(?)と汗と涙の結晶という感じでしようか...
本当にいい言葉をもたらしたと思います。今、あらためて
コッパの財産の“ビオラ”を大切に弾きたいと思っています。

...ではでは、また...。

コナチのこし

しずくは、4月21日から
5月13日まで、あさ月〜あく家の
のちかきからコツマまでいっしょに
にあつてもらいました。
そのほかあおしょうじんのくる
までいっしょにあつてもらいました。
カネリはコツマのかたにあつて
もらいました。こつもしあ
コツマと家までハリスレのつた
かよつていきました。
コナチにかんせんせにな
りようは
いっしょに、コツマのみな
いしあじかしょうじんに
ました。

比 島 大 介

緊急 トップインタビュー

コッペ (仙台市)

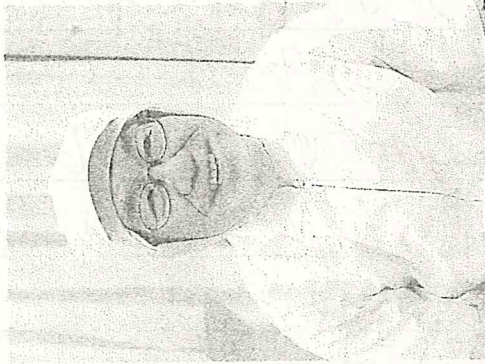
代表

社会に暗い影を落とすコロナ禍に、どう立ち向かうか。今回は30年以上、障害者と共にクッキーとパンを作り続けてきた就労施設「コッペ」(仙台市) 代表の飯嶋茂さん(56)です。

◇ 一現状をどう見ますか。感染者を悪者のように非難したり、ケアに当たる医療従事者を危険物扱いしたり、差別意識の強まりに危惧を感じます。これは障害者が受けてきた差別と同じ。人々の心がずさみ、異質なものを排除したり、さげすんだりする風潮が強まっていますか。一人一人の注意が必要です。

クッキーとパンの製造は続けています。

食品を提供し続ける使命、売り上げを確保して施設を維持するという現実に加え、20人の利用者に通う場を提供し続けるという側面もあります。施設を閉じた場合、利用者のケアを担



える人が身近にいるとは限らないのです。1988年の開業以来、食品を扱ってきたため衛生面は徹底して注意してききました。だから施設での感染リスクは小さいと思っただけですが、それでも悩みながらです。

一売り上げは、大きな比重を占めるイベントでの出張販売がなくなり、全体では半減。それはそのまま利用者の工賃(給金) 減につながるだけに深

働く弱者にも配慮求める

刻です。「働く」という意味では障害者も一緒なのに、現状は行政による給与保証などの救済対象外です。社会のゆがみを弱者にしわ寄せしないよう、きめ細かな配慮を求めたいです。

一願いは、どの事業者も大変だから無理は言えませんが、うちの施設に限らず障害者が懸命に丁寧に作った産品を購買の選択肢に少しでも入れてもらえたらと思います。

information

パンとクッキーは1000円以上の購入で仙台市とその近郊に配達する。遠方には宅配便で送る(送料別途)。他の障害者施設と連携し、「福の市」と銘打った露天販売会も随時実施している。開催予定などの問い合わせ先はコッペ022(299)1279。

企画・制作/河北新報社営業局

新選組ロイヤルウォーカーズ

ともに 乗り越えよう

新型コロナウイルス影響 売り上げ減打開

障害者ら元気に合同市

3/17 河北 仙台・福祉事業所 継続的に開催へ

新型コロナウイルスの感
染拡大で売り上げ減が目立
つ仙台市内の福祉事業所
による緊急の合同書空市
「錦町 福の市」が12日

青葉区錦町の特設会場で始
まった。障害のある施設利
用者らが笑顔で自慢の焼
き菓子などを販売した。18、
19、25、26日にも開催する

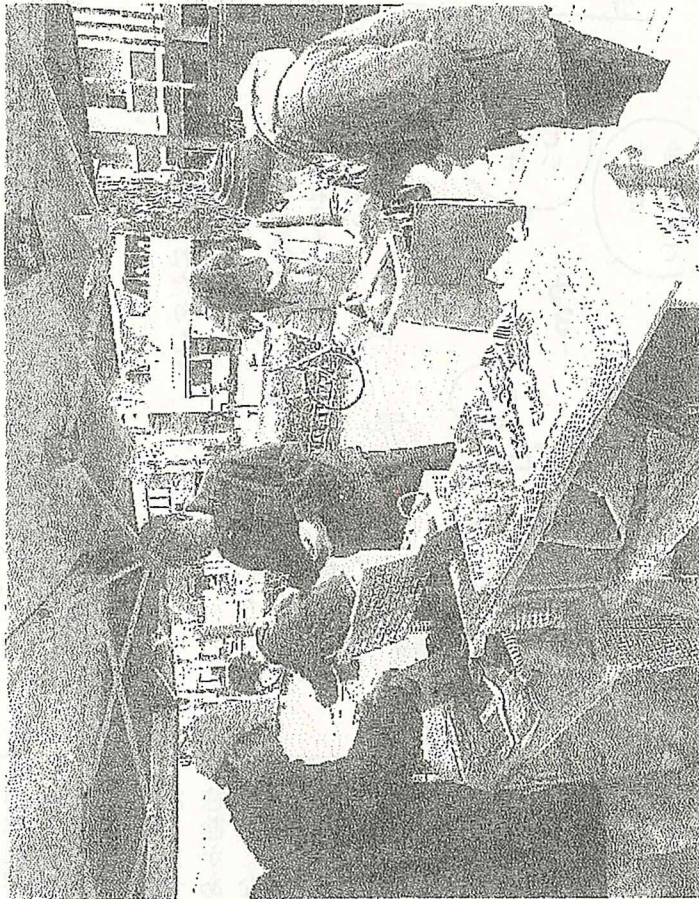
予定。
初日はパン・クッキーの
店「コッペ」（宮城野区）
や豆腐製造の「すまいる作
業所」（泉区）など4事業
所が、空き地に設置した仮
設テントにパン類やスー
ツ、豆腐などを並べた。各
施設の利用者1人余りが通
行人らに「いかがですか」
などと声を掛けた。

来店者はひっきりなし
で「商品を追加したばい」と
販売に当たった利用者の
女性。コッペを利用する宮
城野区の高橋秀幸さん(57)
は「施設外での活動は久し
ぶりだけれい」と語った。
近くに勤務先があつて立ち
寄った泉区の相談員豊原
一さん(64)は「感染症拡大
で苦境にある施設の売り上
げが少しでも上がるとい
い」と期待した。

各事業所とも区役所での
販売会中止や取引先の飲食
店からの注文減などで売り

上げが激減しているとい
う。書空市の連絡先はコッ

ペ 022 (209) 127
9。



施設利用者が笑顔で商品を販売した書空市

錦町から始めた合同市は「福の市」と銘打つ
て、コッペの前の駐車場で毎週土曜日開催中。
(7月以降は第二週の土曜日を予定)

3人6脚

毎日、美味しい食事が食べられて私は **幸せ**

すっきり白くなり
ました

私59才

母85才

食べたら寝るの繰り返しサ

入院から半年が過ぎました。母はすっかり病院生活に馴染んでいます。

コロナの影響で面会謝絶になりましたが、三度の食事を生きがいに行っている母を思うと、あのタイミングで「入院させて良かった」と心から思います。

「食べる」と排泄すること

…生きるって

そゆこと

Q



世の中いろいろ様々 2020.4.10 くさか ゆみ

三十年ぶりに再会した大学時代の友人も、皆認知症の親を抱えています。

母は最近私の名前を呼んでくれなくなつて

淋しい

うちの母も

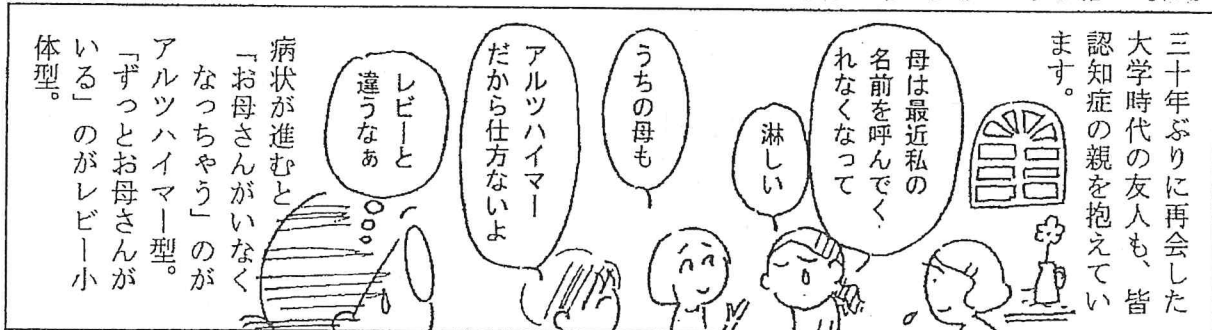
アルツハイマーだから仕方ないよ

レビーと違うなあ

病状が進むと

「お母さんがいなくなつちゃう」のがアルツハイマー型。

「ずっとお母さんがいる」のがレビー小体型。

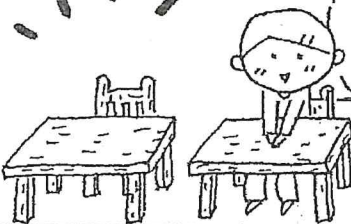


「ここで待っててね」と言われて、いなくなるのがアルツハイマー型。ずっと待てるのがレビー小体型。



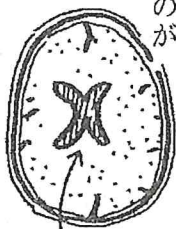
ここはどこ？
今何も
しようとして
しなけ

「私、まっつらわいつまでも」



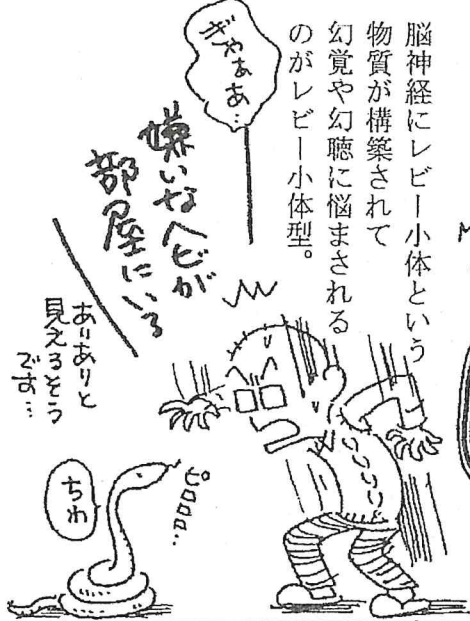
脳に隙間が出来て（収縮して）記憶が薄れるのがアルツハイマー型。

MRI画像



おき間

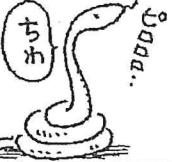
脳神経にレビー小体型という物質が構築されて幻覚や幻聴に悩まされるのがレビー小体型。



ギョああ

嫌いな蛇が部屋にいる

ありありと見えるぞ



レビー小体型認知症の母は薬の調整中です。

妄想を抑える薬を強くするとパーキンソン症状が強くなり、パーキンソン症状を抑える薬を強くすると妄想が強くなるという具合です。

私はすっかり嫌われておりまして

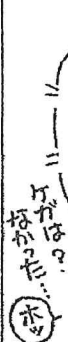
先生に暴言を

「ちよと！先生が連れて来たんだから先生が連れて帰るよ!!」

「晴れ時々、嵐」

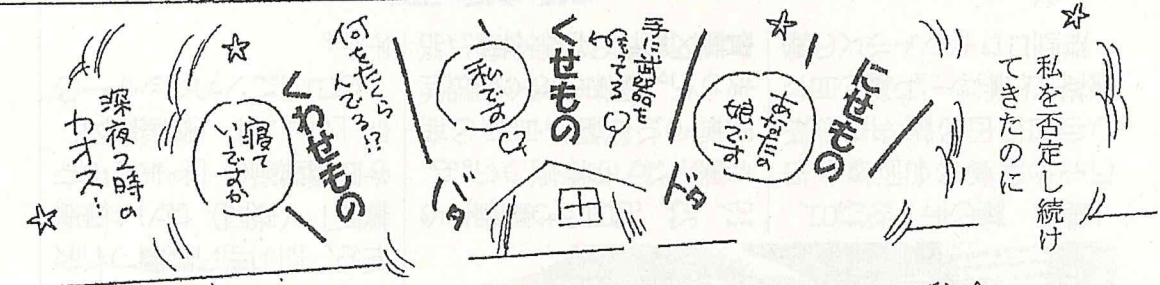
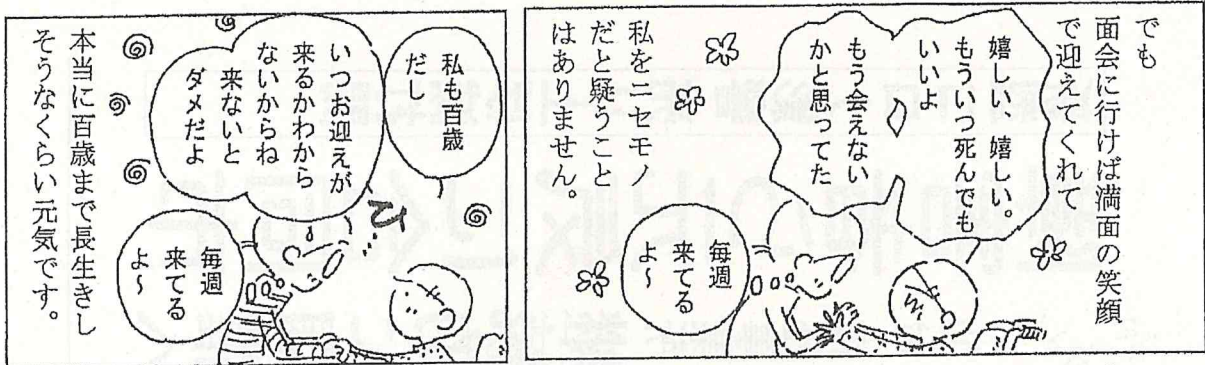
今も波がある母です。妹56才

利用者さんを突き飛ばした



「お母さん、お母さん」

ボウ



新しいメンバー

阿部史希

コッペに入った新メンバーが
来ました。本当にうれしいです。
感謝しています。これからも
ずっと大事な仲間です。

きちんとしっかりと新メンバー事も
優しくしてそして教てくれるのは
大先輩の仕事です。これからも
良く考えて教える事です。

ソレイユの地域とのつながりを感じます。ソレイユマスクは、コッペでも販売しています。



四郎丸小の小池校長(右)に手作りしたマスクを
寄贈するソレイユの利用者ら

仙台市太白区四郎丸の障
言者小規模作業所「フリー
スペースソレイユ」(菅井
明里施設長)は、新型コロナウイルス対策として手作
りした布マスクを近隣の小
学校と幼稚園計4カ所に寄
贈した。
4月中旬から職員と利用
者十数人で約400個を製
作。新入学児童らに4種類
の絵柄を用意した。利用者
の上村勇太郎さん(27)は
「数が多くて大変だったが、
使ってもらえると思うとす
れしい」と充実した様子で
も寄贈された。

障言者も夢中で作る
仙台の園児・新人見習い
河北

菅井さんは「日頃の地域
からの支援に感謝しを考え
た。夢中で作業する利用者
の姿が印象的だった。入学
は延期になったがコロナに
負けず楽しい学校生活を送
ってほしい」と話す。